# さつまいも通信 vol.1

令和６年５月
美里農業改良普及センター
TEL：0229-32-3115
FAX：0229-32-2225

５月に入り、さつまいもの定植時期が近づいてきました。田植え作業の忙しい時期ではありますが、適期に定植が行えるよう、計画的に作業を進めましょう！

## ＜ほ場準備のポイント＞

さつまいもは、土が固く過湿であったり、窒素とカリのバランスが悪かったりすると、**イモができない“ゴボウ根”や“つるぼけ”になります**。排水対策や堆肥等の有機物施用を行うとともに、残肥を考慮した施肥を行いましょう。

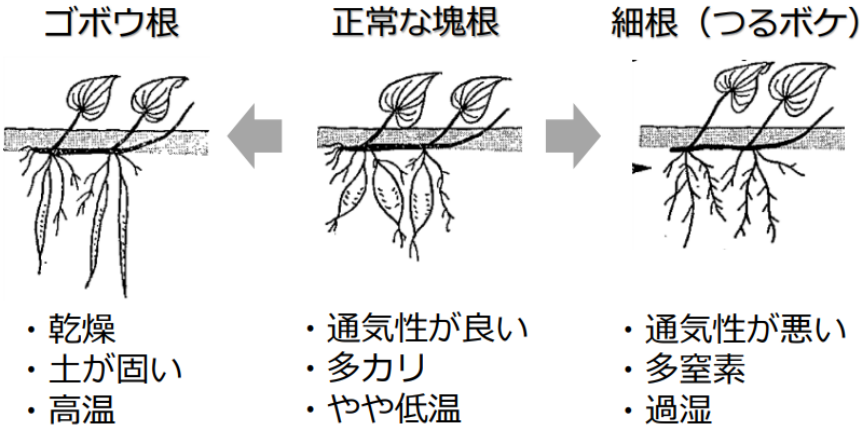


図　サツマイモの根の発達と環境要因
（参照：農山漁村文化協会「技術体系 サツマイモ サツマイモ栽培の基礎理論 基本技術編」）

### ○さつまいもの適正土壌条件

- **ｐＨ　５.０～６.０**
- **窒素：リン酸：カリ＝３（～６※1）：１３：１０**
- **完熟堆肥（稲わらや牛ふん等）※2　１～２t/１０ａ**

※１「べにはるか」は窒素要求量が多いため、残存窒素量が少ないほ場（連作ほ場や堆肥を施用しないほ場等）では窒素６ｋｇ/１０ａ施用。
※２未熟な堆肥はコガネムシを誘引するため注意。

## ★コガネムシ類の被害に注意！

特に連作ほ場や有機物の多いほ場は、コガネムシ類の被害が多発する可能性があります。ハリガネムシ類等、他の害虫とあわせて作付前に防除を行いましょう。

図　ドウガネブイブイ幼虫、コガネムシの被害
（写真：千葉県農林水産技術会議　サツマイモ栽培技術指針）

＜コガネムシ類で作付前に使用可能な主な農薬（2024/5/1現在）＞
- **フォース粒剤**[９ｋｇ/１０ａ、植付前、全面土壌混和又は作条土壌混和]
- **ダーズバン粒剤**[９ｋｇ/１０ａ、植付時、全面土壌混和又は植溝土壌混和]

※農薬の使用前に、必ずラベル記載の登録内容を確認し、農薬使用基準を守って使用してください。

## ＜定植のポイント＞

### ○できる限り早めの定植を！

６月下旬まで定植が遅れると、高温によりゴボウ根が発生します。**定植適期（５月下旬から６月中旬）**に定植しましょう。

### ○植え傷み・乾燥に注意！

晴天の日中の定植は、植え傷みにつながるため、**晴天日の朝方や夕方、曇天日**に定植が望ましいです。また、土壌が乾燥していると活着が悪いため、**乾燥している場合は定植後にかん水を行いましょう。**

### ○株元の土寄せ、鎮圧をしっかりと！

苗の活着率、初期生育の向上のため、**株元の土寄せ、鎮圧をしっかり行いましょう。**また、葉焼けを防ぐため、マルチの上から株元に軽く土を寄せる等、**苗がしっかり立って、茎や葉がマルチに接触しない**ようにしましょう。

## ★苗の保管について

苗は乾燥させないようビニールで覆い、物置や貯蔵庫などの冷暗所で採苗後約１週間保管できます。

採苗後２～３日取り置きしてから定植することで活着が良くなります。購入苗は、苗の状態や採苗の日数から、取り置きを判断してください。

図　採苗後の苗の保管方法
（写真：鹿児島県農政部農産園芸課 さつまいも育苗のポイント）

## ★さつまいも基腐病に注意！

全国各地で発生が確認されおり、一度発生すると根絶が難しい病害です。感染苗や汚染土壌から伝染するため、感染苗を持ち込まないことが重要です。

感染すると株の基部が**暗褐色～黒色**に変色します。その後、イモに菌が移行し腐敗します。

図　さつまいも基腐病の症状（株及びイモ）（写真：農研機構 サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策）

【定植時の対策】
・変色等が無い、健全な種苗を利用する。
・(未消毒の場合)定植時に苗をベンレート水和剤、ベンレートT水和剤20で消毒する。
※農薬の使用前に、必ずラベル記載の登録内容を確認し、農薬使用基準を守って使用してください。